

発行—— 一般社団法人 日本統計学会

〒101-0051 東京都干代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F 公益財団法人 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局

Tel & Fax: 03-3234-7738

編集責任—山下 智志(理事長)/玉置 健一郎(庶務理事) 伊藤 伸介(前広報理事)/小池 祐太(広報理事) 古隅 弘樹(前広報委員)/明石 郁哉(広報委員) 水野谷 武志(前広報委員)/鎌谷 研吾(広報委員)

振替口座-00110-3-743886

銀行口座―みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

E]次		
1.	会長就任のご挨拶 川崎 茂…1	11.	2019年度統計関連学会連合大会のお知らせ(第三報)
2.	会長退任のご挨拶 赤平昌文…2		中川重和・竹村彰通・桜井裕仁… 10
3.	理事長就任のご挨拶 山下智志…3	12.	科学研究費:国際情報発信強化(B)の採択
4.	理事長退任のご挨拶 西郷 浩…4		について 松田安昌… 15
5.	第24回日本統計学会賞について 赤平昌文…5	13.	イタリア統計学会からの招聘による国際会議
6.	第15回日本統計学会統計活動賞について		SIS2019への出席 ····· 赤平昌文··· 15
	赤平昌文…6	14.	第1回細谷賞授賞について 照井伸彦… 17
7.	第15回日本統計学会統計教育賞について	15.	2019 · 2020年度会長選挙開票報告 · · · · · 17
	赤平昌文…7	16.	理事会・委員会報告(2019年5月11日開催) 18
8.	第13回日本統計学会研究業績賞について	17.	理事会・委員会報告(2019年6月8日開催) 19
	赤平昌文…8	18.	社員総会報告
9.	第12回日本統計学会出版賞について… 赤平昌文…8	19.	新刊紹介 25
10.	第33回日本統計学会小川研究奨励賞について	20.	修士論文の紹介26
		21.	学会事務局から 27
		22.	投稿のお願い・・・・・ 28

1. 会長就任のご挨拶

川崎 茂

この度,学会の所定の手続きを経て,2019年6月の理事会において日本統計学会会長に選出されました.長い歴史をもつ本学会の会長に選ばれ,大変光栄に存じます.山下智志理事長を始め,理事,監事,委員会等の皆様のご協力をいただきながら,微力ではありますが,本学会及び統計学の発展のために力を尽くしてまいる所存です.どうぞよろしくお願い申し上げます.

近年,統計学に対する社会の期待が高まっています. 2009年に Google のチーフエコノミスト, Hal Varian が「今後10年間で最も魅力的な職業は統計家となるだろう.」と述べてから, すでに10

年が経過しました. 最近では,「データは21世紀の石油」と言われており, データからの価値創造が従来以上に求められています. また, Evidence Based Medicine, Evidence Based Policy Making など事実に



基づく意思決定が提唱されており、データの活用 はあらゆる分野で重要な課題となっていいます.

他方,統計に関する社会的な疑義や論争も時折 発生します.本年1月には,厚生労働省の毎月勤 労統計調査の不正問題が発生し、正確で当然と思われていた国の統計に対する国民の信頼は、大きく揺るがされることとなりました。また、5月には、金融庁の審議会の報告書に、老後の金融資産として2000万円が必要となるとした試算が掲載され、その解釈をめぐって大きな政治的論議が起こりました。

このように、統計学と統計は、社会の様々な分野で活用されるとともに、頻繁に市民生活の話題にも上るものとなっています。私は、これまでの職業人生において、国の統計機関で統計の作成・分析等に携わり、日頃から、社会と統計の関係の在り方に意を配ってきました。本学会の活動においては、このような経験を少しでも活かせればと考えています。

本学会では、歴代の会長、理事長、役員等の皆様のご尽力により、統計学の発展・普及のために様々な活動が行われてきました。例えば、本学会は、統計関連学会連合への参加を通じて他の関連学会と協働しているほか、欧文ジャーナルを発展的に継承したJapanese Journal of Statistics and Data Science が昨年から刊行されています。また、統計教育の面では、2011年から開始された統計検定の実施への協力、統計教育委員会による統計教育の発展・普及の活動などが行われています。こ

れらの様々な取組は、統計学の一層の発展・普及 に寄与するものであり、今後とも、学会として、 このような活動を支援し、さらに発展させること が必要であろうと考えています。

今日の統計学への関心と期待の高まりが単なる ブームとして終わることのないよう、また、統計 学が真に社会に役立つものとなるよう、今後も、 皆さまとともに力を尽くしたいと考えております。 どうぞご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお 願い申し上げます。

会長略歴:

川崎茂(かわさき しげる)

現職 日本大学経済学部特任教授

1975年 東京大学工学部卒業,総理府統計局に奉 職

1978年 国際連合統計局 (Associate Statistician) 1981年から総理府統計局など国の統計部局に勤務

2005年 内閣府統計制度改革検討室長

2007年 総務省統計局長

2012年 日本大学経済学部教授, 2017年, 特任教授

2013年から統計委員会(総務省)委員 2014年~2016年 国際公的統計協会(IAOS)会 長

専門分野 公的統計・経済統計・統計調査法

2. 会長退任のご挨拶

赤平 昌文(筑波大学)

2017年6月から約2年間,西郷浩理事長はじめとする理事・監事の皆様,代議員の皆様,さらに多くの会員の皆様の御協力を得て,何とか無事に会長の任を果たすことができました.ここに心から感謝申し上げます.

日本統計学会には ISI 東京大会記念基金があり 貴重な原資となっております。基金の性格から国 際統計協会(International Statistical Institute, 略し て ISI)の活動に協力する事業等として遂行され ることになっていて、従来その基金は ISI の大会に参加する発展途上国の方々の参加支援事業として利用されてきました。しかし、基金のより有効な活用について、基金運営委員会において以前から様々な議論が積み重ねられた結果、ISI WSC (World Statistics Congress) のサテライト会議やISI の下部機関の会議への支援を行うとともに、ISI 東京大会記念奨励賞も創設することになりました。実際、本基金から ISI の下部機関 IASE

(International Association for Statistical Education) の第10回国際統計教育大会 (10th International Conference on Teaching Statistics, 略して ICOTS10) と ISI WSC 2019のサテライト会議として2019年8月に同志社大学で開催される Data Science, Statistics & Visualization (DSSV) 2019に助成しております。なお、ICOTS10は2018年7月に京都で開催され、成功裏に終了しました。また、第1回ISI 東京大会記念奨励賞の募集を2018年9月に行い、2019年2月に授賞候補者を決定し ISI WSC 2019での発表をもって授賞が決定することになっております。これらの事業は ISI およびその下部組織からも評価されており、今後、学会の重要な国際的活動として継続することにより、さらに国際的なプレゼンスが高まることが期待されます。

2018年末から厚生労働省毎月勤労統計調査において不適切な方法により調査が実施されていたことなどについて連日マスコミ等で取り上げられ、学会としても姿勢を示すため2019年1月に学会ウェブサイトに声明文を発表しました。このような形で「統計」が社会に周知されることになったの

は残念ではありますが、統計に携わる者は自身の問題として考える機会となりました。学会としては、企画・行事委員会の皆様の御尽力で2019年3月の春季集会において、この件に関する特別セッションをタイムリーに開催することができました。また、新たに設置された公的統計に関する臨時委員会において、様々な課題が検討され報告書も提出され学会ウェブサイトに掲載されております。

学会の欧文誌が2018年から統計関連学会連合のJapanese Journal of Statistics and Data Science (JJSD) として発展的に継承され、学会としても支援してまいりました。幸いにも、2019年度科学研究費の研究成果公開促進費「国際情報発信強化(B)」に採択されましたので、この科研費補助金により、JJSD等を通して国際情報発信力が一層強化されるとともに、学会の財政基盤がより安定することを期待しております。

いまは不確実な時代で困難にも遭遇しますが, 川崎茂新会長を中心に学会がさらに発展すること を願っております.

3. 理事長ご挨拶

山下 智志 (統計数理研究所)

このたび理事長を拝命いたしました. 学会 HP に歴代の理事長リストがあるのですが, 改めて確認してみると錚々たるメンバーで, 尊敬に値する方々です. 身に余る光栄と感じているのですが, 一方私で任に堪えうるか, 不安でいっぱいです. これまで庶務理事, 会計担当の理事を 4 期担当させていただき, 学会運営の補助的な役割は経験しておりますが, これからは理事長として運営のとりまとめを務めなくてはなりません. 幸い, 長期にわたり統計学界のリーダーとしてご活躍いただいている川崎先生を会長に迎え, さらにこれまで献身的に学会活動にご尽力いただいておりました経験豊富な先生方に理事をお引き受けいただき, たいへん心強く感じています.

現在,ビッグデータ,データサイエンス,人工知能,機械学習など統計に関する追い風がある一方,政府統計のような微妙な問題があり,統計学と社会の接点が再構成されつつあります.また,学会誌がネット上で



自由に閲覧でき、学者研究者が個々につながることができるようになり、あらためて学会の存在価値が問われる状況と感じております.

具体的に以下の点について、自身の課題と感じています.

第1は、会員にとっての学会の存在価値の向上

です.これまで学会の価値の中心に学会誌と大会の開催がありました.ところが,統計学会では欧文誌の発行については統計関連学会連合に発行母体を移管し、学会共有の雑誌として再出発しております.また、大会につきましては秋の全国大会は学会連合主催の行事となっております.そのため,統計学会独自の活動としては和文誌の発行と、春大会の開催が中心となっています.このような現状において、若手研究者にとって入会を欲するほどの魅力を維持するためには、より斬新で密度の濃い交流の機会を提供する必要性を感じています.

第2は、データサイエンスや機械学習などの近年のムーブメントへの対応です。社会のデータやその分析についての関心が強くなってきており、さらに日本の国際競争力維持のためにも早急に対応が求められています。機械学習・人工知能については時には統計学と対比的に紹介されることもありますが、統計学を一方の基礎として成立している技術です。そのため、この分野への積極的な関与が学会に求められており、要請に応える必要性を感じています。

第3は、統計技術者の人材育成に関する学会の 関与です。第2のムーブメントメントから日本に おいてデータ分析を行える人材が不足しており、 それが産業の発展の障害になっています。この問 題を解決する役割の一端を学会が担う必要を感じ ます. 共通教材の開発や, 質保証, 教育技術の開発などをテーマに, 共同事業を進めて行きたいと 思います.

以上,これから解決すべき課題のように書きましたが、実際はすでに会員の先生方がすでに取り 組んでいらっしゃる課題です。私としてはそのような有意義な活動を、組織運営を通じてサポートできるよう任務に注力します。

2年間の任期となりますが、粉骨砕身・惜しみなく努めて行きますので、どうかご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いします。

理事長略歴:

山下智志 (やました さとし) 博士 (工学) 1963年8月年まれ

1989年 京都大学大学院工学研究科応用システム 科学専攻修了

安田信託銀行, 熊本大学助手, 統計数理研究所助手, 助教授を経て

2011年統計数理研究所教授現在に至る.

この間マサチューセッツ工科大学客員准教授, 金融庁特別研究員,バーゼル銀行監督委員会評 価グループ委員を併任.

現在の併任業務は、統計数理研究所副所長、リスク解析戦略研究センター長.

専門分野:ファイナンス統計学

4. 理事長退任のご挨拶

西郷 浩(早稲田大学)

先々週の土曜日(2019年6月8日)に開催された社員総会の閉会とともに、2年間の理事長としての私の任期が終了しました。本務校における教育・研究の他に、本務校における学部常務者と統計委員会委員、日本統計学会理事長を兼務することとなり、我ながら忙しい2年間を過ごしました。そのため、ひとつひとつの業務に必ずしも十分な時間を割けず、周囲に迷惑をかけました。幸い、

日本統計学会の理事のかたがたの献身的な努力の おかげで大過なく任期終了を迎えることができま した. とくに、学会運営が難局を迎えるたびに赤 平前会長が明確なビジョンを示されたおかげで、 理事全員が安心して業務を遂行できたことに深く 感謝いたします.

理事長就任時に、統計学会にとって私が重要 と思う項目として、新雑誌 Japanese Journal of

Statistics and Data Science を成功裡に創刊・継続す ること. 公的統計をふくめたデータの科学的な作 成・分析への社会の要望に応えていくこと、わが 国の統計教育に協力すること, の3点をあげまし た (会報174号 4ページ). このうち. 第1点につ いては、編集委員長を中心とした編集委員会の努 力の甲斐もあり、2018年6月に創刊号が発刊され てから、順調に投稿論文が集まっているとうかが っています. 投稿数だけでなく. 投稿論文の質も 高く、JJSD の website を運営する Springer-Nature 社から予想以上の閲覧数があるとの報告を受けて います. JJSD は統計関連学会連合の雑誌です. しかし、その運営や投稿論文の質・量の維持には 統計学会の会員の力が必要です。 新雑誌の国際的 認知度が高まるように、今後も会員のご協力をお 願いいたします。

第2点には、当初予想しなかった形で学会が関わることになりました。2018年末に、公的統計の一部が不適切に作成されていた事実が発覚し、公的統計に対する国民の信頼が根底から揺さぶられる事態となりました。このことについて、日本統計学会は学会声明によって原因究明と再発防止策の検討に専門的な見地から協力することを表明しました。さらに、公的統計に関する臨時委員会を設置し、学会として独自にこの問題の検討を進めました。

第3点については、これまで同様に統計教育委員会・統計教育分科会の活動を継続するとともに、常設委員会としての質保証委員会を新設し、統計検定の運営に関わる恒常的な組織を学会内に配置しました.

これら3点の他に、私が個人的に目標としていたのは、理事長就任の4年ほど前に始められた『統計科学百科事典』翻訳事業の完了でした。2017年夏に、編集委員長とともに出版社にうかがい、その時点で残り3割ほどだった作業を再計画して、2018年12月に刊行となりました。目標としていた事業が曲りなりも完成したことで安堵しました

こうして振り返ると、結局、自分が理事長として果たしてきた役割は、適任者を探してお願いすることだけであったように思えます。自らが貢献した部分があまりに乏しいことを反省しています。しかし、その一方で、理事長として人材豊かな団体を運営するためには、これも一つの方法だと今は感じています。

川崎新会長は統計行政の長として、山下新理事 長は会計担当理事として、組織運営に豊富な経験 をお持ちです。新しい理事会に存分に力を発揮し ていただき、日本統計学会がますます発展するこ とを祈念します。

5. 第24回日本統計学会賞について

赤平 昌文(前日本統計学会会長)

2019年度の日本統計学会賞は、以下の方に授与することが決まりました。

受賞者氏名:小幕 厚之氏

略歴:1977年東北大学経済学部卒業,1986年 Ph.D. in Statistics 取得 (イエール大学統計学部), 1985年東北大学経済学部助手,1986年福島大学経済学部助教授,1998年千葉大学法経学部教授, 2001年慶應義塾大学総合政策学部教授,2018年慶 應義塾大学名誉教授,東京経済大学経営学部教授. 授賞理由:小暮厚之氏は我国の黎明期にあった金融工学,また保険数理の新たな展開であるアクチュアリアル・サイエンスにおいて多くの優れた研究業績を挙げている。特に,ベイズ統計学を市場整合的なリスク評価に結びつける斬新な手法を提案して,世界的に高く評価されている。またファイナンス関係等の著書の刊行を通して,金融・保険分野の統計分析の普及,啓発に貢献し,さらに, 金融工学および保険に関する統計分析を推進する 我国の学会等への貢献も顕著である.

小暮氏のこのような統計学の発展および普及に 対する多大な貢献は、日本統計学会賞にふさわし いものである。

主要業績:

- [1] Kogure, A. (1998). Effective interpolations for kernel density estimators. *Journal of Nonparametric Statistics*, 9, 165-195.
- [2] Kogure, A., Kitsukawa, K. and Kurachi, Y. (2009). A Bayesian comparison of models for changing mortalities toward evaluating longevity risk in Japan. Asia-Pacific Journal of Risk and Insurance

3, 1-22.

- [3] Kogure, A. and Kurachi, Y. (2010). A Bayesian approach to pricing longevity risk based on risk-neutral predictive distributions. *Insurance Mathematics and Economics*, **46**, 162-172.
- [4] Kogure, A., Li, J. and Kamiya, S. (2014). A Bayesian multivariate risk-neutral method for pricing reverse mortgages. *North American Actuarial Journal* 18, 242-257.
- [5] Kogure, A. and Fushimi, T. (2018). A Bayesian pricing of longevity derivatives with interest rate risks. *Asia-Pacific Journal of Risk and Insurance* 12.

6. 第15回日本統計学会統計活動賞について

赤平 昌文(前日本統計学会会長)

2019年度の日本統計学会統計活動賞は、以下の団体に授与することが決まりました。

受賞団体名:国立大学法人 滋賀大学

授賞理由:滋賀大学は、日本で最初に2017年4月 にデータサイエンス (DS) 学部を設置した.

従来,日本の大学・大学院では統計学関係者が複数の学部・大学院や組織に散在しているのが一般的であり,大学の学部教育や大学院教育等,系統的な高等専門教育は先進国として極めて不十分と言わざるを得ない状況であった。他方,近年の社会における情報通信技術の進歩は目覚ましく,データを取巻く環境は急激な変貌を遂げ,それに呼応して日本社会においても統計・データに基づいて課題を解決できる人材が求められるようになっている。そのような状況の中,2014年に滋賀大学において前学長の佐和隆光氏によりDS学部設置が発議。公的審査を経て2016年に正式に文部科

学省によって認可されている。実際にDS学部の設置に当たっては、DS学部の竹村彰通学部長が中心的役割を果たし、その貢献は顕著である。滋賀大学はDS学部の先駆けであり、その後、他大学でもDS学部が設置され始めている。

滋賀大学が日本で最初に DS 学部を設置したことは、統計学および統計を支える基盤の充実・高度化への多大な貢献として、日本統計学会統計活動賞にふさわしいものである。

参考資料:

- [1] 滋賀大学 DS学部 Website: https://www.ds. shiga-u.ac.jp/
- [2] Takemura, A. (2018). A new era of statistics and data science education in Japanese universities. *Japanese Journal of Statistics and Data Science* 1, 109-116.
- [3] 竹村彰通 (2018). データサイエンス入門. 岩波書店.

7. 第15回日本統計学会統計教育賞について

赤平 昌文(前日本統計学会会長)

2019年日本統計学会統計教育賞は以下のように 授与することが決まりました.

[1] **受賞団体名**:一般社団法人日本品質管理学会 TOE 特別委員会

授賞理由: TQE(Total Quality Education)特別委員会は、設置以降10年にも及ぶ取組を通して統計教育普及に多大な実績を挙げ、日本統計学会の統計教育委員会とともに平成29年、30年度に告示された新学習指導要領における小中学校を通しての統計教育の更なる拡充と重点化に大きく貢献した、特に、産官学の有識者と初中等の学校教育現場を繋ぐ「科学技術教育フォーラム」を実施し、また産業界の人材育成の研修知見に基づく初等中等教育における統計的問題解決法の事例を開発し、副教材として配信したことは高く評価される。

TQE 特別委員会のこれらの活動は、統計教育の発展に大きく貢献しており、統計教育賞にふさわしいものである。

参考資料:

- [1] TQE Website: https://suzukilab.wordpress.com/jsqc-tqe/
- [2] 鈴木和幸 (2015). 初等中等教育における問題解決力育成にむけて. 品質誌 TQE 特別委員会特集を編纂 (Vol.45, No.4), 文科省視学官招待論文始め有識者の論文 5 本.
- [3] 鈴木和幸 (2018). データ駆動型社会と新学 習指導要領. 品質誌 TQE 特別委員会特集を 編纂 (Vol.48, Nos.4, 5), 文科省視学官招待論 文始め有識者の論文 6 本.

[2] 受賞者氏名:塩澤 友樹氏

略歴:

2008年筑波大学第一学群自然学類卒業,2010年筑波大学大学院教育研究科教科教育専攻修了,2010

年東京都立小石川中等教育学校教諭,2016年東京都立白鷗高等学校附属中学校教諭,2018年岐阜聖 徳学園大学教育学部専任講師.

授賞理由:塩澤友樹氏は、標本抽出の概念形成に 関する理論研究の遂行後、学校現場での多くの授 業実践を通して、新たな統計教材の開発や指導法 の提案に精力的に取り組んでいる。特に、2012年 8月における日本科学教育学会第36回大会では、 平成29年、30年告示学習指導要領に繋がる先駆的 な実践に関する発表を行った。また、2011年から は日本数学教育学会研究部高等学校部会常任幹事 として同学会の全国算数・数学教育研究大会の教 育課程分科会(高等学校)において基調発表を担 当し、教育課程や課題研究に関する提言を行って きた。

塩澤氏のこれらの活動はこれまでの実績に加え、 統計教育のこれからの発展に大きく貢献すること が期待され、統計教育賞にふさわしいものである. 主要業績:

- [1] 塩澤友樹・須藤雄生 (2012). 中学校数学科 における標本調査の授業実践―標本抽出に着 目して―. 日本科学教育学会年会論文集, 36, 151-154.
- [2] 塩澤友樹 (2015). 高等学校数学科における 相関関係の指導の現状とその改善に関する一 考察―散布図の見方に着目して―. 日本科学 教育学会年会論文集 39. 153-156.
- [3] 塩澤友樹, 柗元新一郎, 川上貴, 藤原大樹, 細矢和博 (2016). 中等教育段階における生徒の統計的思考力の現状と課題 (2) ― PPDAC サイクルにおける「分析」の相に焦点とあてて―. 日本数学教育学会誌 98 (9), 4-14.
- [4] 塩澤友樹 (2019). データサイエンス時代に 向けた学校数学における条件付き確率の扱い

特別号, 41-46.

の再考—ベイズ推測に着目して—. 統計数理 研究所共同研究リポート. 統計教育実践研究.

8. 第13回日本統計学会研究業績賞について

赤平 昌文(前日本統計学会会長)

2019年度の日本統計学会研究業績賞は、以下の2名の方々に授与することが決まりました

受賞者氏名: P. J. Brockwell 氏・松田 安昌氏 (共同受賞)

Brockwell 氏略歴: 1967年 PhD 取得(オーストラリア国立大学), 1966年アルゴン国立研究所研究員, 1970年ミシガン州立大学准教授, 1976年コロラド州立大学教授, 現在, 同大学名誉教授.

松田安昌氏略歴:1999年博士(理学)取得(東京工業大学),1997年神奈川大学工学部助手,2000年新潟大学経済学部助教授,2005年東北大学大学院助教授,2011年東北大学大学院教授.

授賞理由: Brockwell 氏と松田安昌氏は、連続時間自己回帰移動平均モデルを時系列から空間データに拡張し、またベイズモデルによる新しい推定アルゴリズムの提案とその地価データ空間構造の分析への適用は高く評価されている。特に、連続

と離散にあるギャップをベイズ法によって解釈し、 推定さらにスムージングに応用しているところに 応用データ解析の面からの多大な貢献がある.

Brockwell 氏と松田氏のこのような統計学の広範な研究分野に対する顕著な貢献は、日本統計学会研究業績賞にふさわしいものである。

主要業績:

- [1] Brockwell, P. and Matsuda, Y. (2017). Continuous autoregressive moving average random fields on Rn. *Journal of the Royal Statistical Society, Series B*, **79**, 833-857.
- [2] Brockwell, P. (2014). Recent results in the theory and applications of CARMA processes. *Ann. Inst. Statist. Math...* **66**, 647-685.
- [3] Matsuda, Y. and Yajima, Y. (2018). Locally stationary spatio-temporal processes. *Jpn. J. Stat. Data Sci.*, **1**, 41-57.

9. 第12回日本統計学会出版賞について

赤平 昌文(前日本統計学会会長)

2019年度の日本統計学会出版賞は、以下の方に 授与することが決まりました.

受賞出版物:歴史と統計学―人・時代・思想. 日本経済新聞社.

受賞者氏名: 竹内 啓氏

略歴:1956年東京大学経済学部卒業,1961年東京 大学大学院経済学研究科博士課程修了,1963年東 京大学経済学部助教授,1975年~1994年同教授, 1987年~1994年同先端科学技術研究センター併任 教授, 1994年~2006年明治学院大学国際学部教授, 現在, 東京大学名誉教授, 明治学院大学名誉教授, 日本学士院会員.

授賞理由:著者の竹内啓氏は、日本のみならず世界を代表する統計学者であり、これまでにも多く著書および論文で統計学の分野で多大な貢献をされてきた.

本書は、日本の統計学の分野における金字塔、 最高峰の頂であり、著者が述べているように、そ の頂に達するのに様々な登り口が用意されている. 具体的には「人口統計」、「政治算術・国情論」、「確率論」、「進化論」、「マクロ経済計算」、「ベイズ統計学」等の登り口である。統計学の研究者はもとより、統計実務者、統計学を学ぶ学生、院生が自分に合った登り口から頂を目指す必読書にな

ることが期待される.

受賞の対象となった著書は、日本の統計学分野 の誇るべき財産であり、日本統計学会出版賞とし て顕彰するにふさわしいものである。

10. 第33回日本統計学会小川研究奨励賞について

赤平 昌文(前日本統計学会会長)

2019年度の日本統計学会小川研究奨励賞は、以下の方に授与することが決まりました。

受賞者氏名:茂木 快治氏

略歴:2008年早稲田大学政治経済学部経済学科卒業,2009年早稲田大学大学院経済学研究科修士1年コース修了,修士(経済学)取得,2014年ノースカロライナ大学チャペルヒル校博士課程修了,Ph.D. in Economics 取得,2014年早稲田大学政治経済学術院助手,2015年同助教,2016年神戸大学大学院経済学研究科講師.

授賞理由:茂木快治氏は、観測頻度が異なる成分時系列から構成される多変量系列をベクトル自己回帰(vector autoregressive、略して VAR)モデルを用いて解析する場合について、理論および実証分析において優れた業績を挙げている。特に、Granger 因果性を検定するための新たな検定統計量の提案、また観測頻度の異なる株価、銀行貸出高、企業収益、企業投資額を組みこんだ VAR モデルを構築して新たな知見を与えている。

茂木氏の研究は理論および実証分析において将 来が期待され、日本統計学会小川研究奨励賞にふ さわしいものである.

主要業績:

- [1] Ghysels, E., Hill, J. B. and Motegi, K. (2016). Testing for Granger causality with mixed frequency data. *Journal of Econometrics* 192, 207-230.
- [2] Motegi, K. and Sadahiro, A. (2018). Sluggish private investment in Japan's lost decade: Mixed frequency vector autoregression approach. North American Journal of Economics and Finance 43, 118-128.
- [3] Hill, J. B. and Motegi, K. (2019). Testing the white noise hypothesis of stock returns. *Economic Modelling* **76**, 231-242.
- [4] Ghysels, E., Hill, J. B. and Motegi, K. (2018). Testing a large set of zero restrictions in regression models, with an application to mixed frequency Granger causality. Accepted in *Journal* of *Econometrics*.
- [5] Hamori, S., Motegi, K. and Zhang, Z. (2019). Calibration estimation of semiparametric copula models with data missing at random. *Journal of Multivariate Analysis* 173, 85-109.

11. 2019年度統計関連学会連合大会のお知らせ(第三報)

運営委員長 中川 重和 (岡山理科大学) 実行委員長 竹村 彰通 (滋賀大学) プログラム委員長 桜井 裕仁 (大学入試センター)

今回で18回目になる2019年度統計関連学会連合大会について進捗状況をご報告いたします。今大会は応用統計学会,日本計算機統計学会,日本計量生物学会,日本行動計量学会,日本統計学会,日本分類学会の6学会主催,滋賀大学共催により開催する運びとなりました。初日の9月8日(日)はチュートリアルセッションと市民講演会を,一般講演などは2日目以降(9月9日(月)~12日(木))に、会場はいずれも滋賀大学・彦根キャンパスで開催いたします。懇親会は、大会4日目(9月11日(水))の晩に、琵琶湖遊覧(浜大津港)で開催します。是非ご参加ください。

この第三報では、チュートリアルセッション、 市民講演会、企画セッション、コンペティション セッションなどの概要を項目ごとにご紹介いたし ます、今後、連合大会のウェブページ

http://www.jfssa.jp/taikai/2019/

に関連情報や詳細情報を随時掲載していきますので、ご覧ください.

1. 大会日程, 開催場所, 各種受付期間

	9月8日(日):チュートリアルセッショ
開催日程	ンと市民講演会
・場所	9月9日(月)~12日(木):本大会
	(いずれも滋賀大学・彦根キャンパス)
	応用統計学会, 日本計算機統計学会, 日
主催	本計量生物学会,
土	日本行動計量学会, 日本統計学会, 日本
	分類学会
共 催	滋賀大学(予定)
懇 親 会	9月11日(水)17:00~19:00 (予定)
恋 祝 云	琵琶湖遊覧 (浜大津港)
講演申込	5月13日(月)11:00~6月5日(水)17:00

報告集原 稿提出	6月12日(水)11:00~6月28日(金)17:00
事前参加 申込	7月16日(火)13:00~8月19日(月)17:00

2. 講演の申込

講演には次の種類があります.

- 一般講演
- ・企画セッション講演
- ・コンペティション講演

申込方法は、すべての講演に共通の事項と種類 ごとに異なる事項があります. ご注意ください.

(1) すべての講演に共通の事項

講演をご希望の方は、上記ウェブページからお申し込みください。これ以外の申込方法はありません。申込ページでは、「一般講演」、「企画セッション講演」、「コンペティション講演」のいずれかを選択してください。原則として、申込は講演者が行ってください。ただし、「企画セッション講演」に限り、オーガナイザーがすべての講演をまとめて申し込むことも可能です。

(2)「一般講演」に関わる事項

通常の講演は「一般講演」として講演者がお申し込みください.ウェブページ上の講演申込手順にしたがって申込をしてください.プログラム編成の際の参考にしますので、最大3個までのキーワードを、重視する順にご選択ください.また、講演者(連名講演者を含む)のうち、少なくとも1名は主催6学会のいずれかの会員であることが要件です.

(3) 「企画セッション講演 | に関わる事項

企画セッション講演者は、オーガナイザーから 連絡を受けた整理番号に対応するセッションを申 込ページの講演種別にて選択してください. 例えば,整理番号が12であると連絡を受けた講演者は,講演種別欄では「企画セッション講演12」を選択してください. なお,企画セッション講演者(連名講演者を含む)については,主催6学会いずれかの会員であることを要件としません.

オーガナイザーがセッション内の講演全件を申 し込む場合は、上記(2)と同様にして、それぞ れの講演の申込を1件ずつお願いいたします.

(4)「コンペティション講演」に関わる事項

コンペティション講演は、研究内容とプレゼン テーションの能力を競う企画で、今回で17回目を 迎えます、参加資格は、次のいずれかの条件を満 たす方です。

- (a) 2019年4月1日時点で30歳未満の若手研究 者(博士後期課程院生を含む)
- (b) 講演時に学部学生や修士課程(または博士 前期課程)院生(年齢は問いません)

連名講演の場合、コンペティション対象者は実際に口頭発表する方です。また、コンペティション対象者は、講演申込時に主催 6 学会のいずれかの会員でなければなりません。ただし、入会申請中の方も認めます。プログラム委員会から各学会事務局に会員照会し、会員(入会申請中)でないことが判明した場合は、コンペティションへのエントリーを取り消しますので、十分にご注意ください。

審査は、複数名の審査委員による5段階評価にもとづく投票で実施する予定です。選考はプログラム委員会で行います。審査では、研究内容とともに、研究発表のプレゼンテーションについても評価します。発表者が十分に準備・工夫し、充実したプレゼンテーションであることを期待しています。原則として、最優秀報告者1名、優秀報告者数名程度を選考します。

コンペティションセッションは、9月9日 (月) \sim 11日 (水) (予定) に開催し、9月11日 (水) または9月12日 (木) に滋賀大学・彦根キャンパス内で表彰式を行う予定です。なお、コンペティション応募総数は年々増加傾向にあり、プ

ログラムを組むのが難しくなっています. したがって, 今年度も申込順で受け付け, 応募状況によってはコンペティション参加件数を制限することがあります.

(5) 講演言語の選択欄

講演申込のページの講演言語欄では,「日本語」, 「英語」,「どちらでもよい」のいずれかを選択してください.

3. 講演報告集用原稿の提出

(1) 「一般セッション講演」,「コンペティション 講演 | に関わる事項

報告集用の原稿は A4サイズで1ページです. インターネット経由で電子ファイル (PDF 形式) を提出していただきます. 「1. 大会日程, 開催 場所, 各種受付期間」を参照の上, 原稿提出期間 を厳守してください.

(2)「企画セッション講演」に関わる事項

原則として、講演者が提出してください、書式・提出期間等は、上記(1)と同じです。オーガナイザーがまとめて提出する場合は、セッション内の各講演について、上記(1)と同様にして1件ずつ原稿を提出してください(「2.講演の申込(3)「企画セッション講演」に関わる事項」も参照)、その場合、オーガナイザーは、期限内に原稿を提出できるようなスケジュールで講演者に原稿作成・提出を依頼してください。

(3) すべての講演に共通の事項

講演種別にかかわらず、ご希望の方は、報告集用原稿とは別に、ウェブページに掲載する詳細論文を受け付けます(A4サイズ、最大10ページまで、PDF形式、ファイルサイズは1MB以内、フォント埋め込み)。論文ファイルをメールによりプログラム委員会宛(submission2019@jfssa.jp)に提出期間内にお送りください。報告集用原稿および詳細論文の執筆要領については、連合大会ウェブページ(http://www.jfssa.jp/taikai/2019/)をご覧ください。

(4) その他

講演報告集は大会当日にお渡しします.

【注意】

報告集は、本大会ウェブページにて公開予定です. 公開を希望しない場合には、報告集用原稿の提出時に、その旨をご指示ください.

4. 企画セッションのご案内

学会や個人等から申請のあった16件の企画セッションが予定されています。整理番号、テーマ名、オーガナイザーの氏名・所属は以下の通りです。各テーマのねらいや講演者・講演タイトルなどについては、後日連合大会のウェブページに掲載される情報をご参照ください。なお、企画セッションの運営はオーガナイザーに一任していますので、テーマについてのお問い合わせは、各オーガナイザーにお願いいたします。企画セッションの日程はプログラム作成時に決定いたします。

整理番号、テーマ名、オーガナイザー(敬称略)

- (01) 日本統計学会 会長講演,各賞授賞式および 受賞者記念講演(西郷 浩(早稲田大学))
- (02) 公的統計における指数作成方法の新しい展開 (美添泰人 (青山学院大学))
- (03) 日本計量生物学会シンポジウム「疾患レジストリデータを活用する臨床試験デザインと統計解析法」(平川晃弘(東京大学),安藤友紀(医薬品医療機器総合機構))
- (04) 日本計量生物学会奨励賞受賞者講演(安藤 友紀(医薬品医療機器総合機構),五所正彦 (筑波大学),田栗正隆(横浜市立大学),山本 英晴(中外製薬))
- (05) 応用統計学会企画セッション「関数データ 解析 | (二宮嘉行(統計数理研究所))
- (06) 統計数理研究所医療健康データ科学研究センター「医療統計学のフロンティア」(伊藤陽一(統計数理研究所),田栗正隆(横浜市立大学))
- (07) 応用統計学会学会賞授賞式, 受賞者講演 (青木 敏(神戸大学), 姫野哲人(滋賀大学))
- (08) 日本計算機統計学会 企画セッション「高次 元データ解析における計算機・理論統計の最新 の展開」(廣瀬 慧 (九州大学))

- (09) 放射線リスク評価のための統計学(古川恭治(久留米大学), 柳川 堯(久留米大学))
- (10) 大規模データの利活用におけるプライバシー保護の展開(佐井至道(岡山商科大学), 星野伸明(金沢大学), 伊藤伸介(中央大学))
- (11) 日本統計学会統計教育委員会企画セッション「新しい学びの時代の入学試験における統計分野の現状と導入に向けて」(竹内光悦(実践女子大学), 藤井良宜(宮崎大学), 渡辺美智子(慶応義塾大学))
- (12) 地震ビッグデータ解析の最前線(長尾大道 (東京大学),加藤愛太郎(東京大学),矢野恵 佑(東京大学))
- (13) 最適な動的治療レジメ推定のための統計的 方法とその応用(大前勝弘(京都大学))
- (14) 統計モデリングと機械学習で紐解く生命システムのダイナミクス(島村徹平(名古屋大学),新井田厚司(東京大学),白石友一(国立がん研究センター研究所))
- (15) ミクロデータの利用技術と EBPM (山下智志 (統計数理研究所))
- (16) ソフトウェア・デモンストレーションセッション
- 5. プレナリーセッション, チュートリアルセッション. 市民講演会について

統計関連学会連合大会プレナリーセッション

統計関連学会連合大会は、国際的な学術集会を志向し、海外からの参加者のために英語セッションの増加などの方策を行っています。本セッションは、連合大会 JJSM(Japanese Joint Statistical Meeting)の国際化をさらに推進するため、世界的に著名な研究者を招聘しての講演をプレナリーセッションとして企画するものです。

日時:2019年9月9日(月)午前

場所:滋賀大学・彦根キャンパス 大合併講義室

講演者: Peter Brockwell (コロラド州立大学 名 誉教授)

講演者の Peter Brockwell 教授は、時系列解析の

名著として世界的に有名な Brockwell and Davis (1991) "Time Series: Theory and Methods", Springer を著すなど、時系列分析の分野で卓越した学問的業績をあげられていて、近年では時系列 ARMA モデルを連続時間に拡張した CARMA モデルの研究で知られています。

チュートリアルセッション

今回のチュートリアルセッションでは、近年着目されている「Selective Inference」をテーマとして取り上げ、この研究分野で活躍されている下平英寿氏、竹内一郎氏、寺田吉壱氏にご講演いただくことになりました。奮ってご参加ください。参加費については、「6.参加申込と大会参加費」をご覧ください。

日時:2019年9月8日(日)13:00~16:00(休憩時間を含む)

場所:滋賀大学・彦根キャンパス 大合併講義室 テーマ:Selective Inference の理論と応用

オーガナイザー:下平英寿(京都大学)

講演者:下平英寿(京都大学),竹内一郎(名古屋工業大学),寺田吉壱(大阪大学)

概要:

データから仮説を生成することがしばしば行わ れる。データマイニングや近年提唱されているデ ータ駆動科学では膨大なデータから機械学習など によって有望な仮説が選択される. ここでは、モ デル選択やクラスタリングなど様々な形式の問題 を想定している. このように仮説を選択したとき. 同じデータを用いて仮説またはそれを表現するモ デルに関する推測を行うときに生じるバイアスを 回避するため、多重検定補正に基づくアプローチ などが提案されているが、その適用範囲は限定さ れ、様々な課題が指摘されている. 近年、このバ イアスを補正するための新たなアプローチとして. 選択イベントの条件付き推測を行う「Selective Inference」とよばれる枠組が注目されている.本 チュートリアルでは、その基本的な考え方や方法 論をわかりやすく解説し、Lasso で変数選択をし たときの係数の信頼区間のバイアス補正やその発

展系の詳解、多重比較や FDR などとの関係、機械学習の先端的な応用研究、ブートストラップ法による最近の研究を解説する。

市民講演会

今回の市民講演会では、感染症の専門家として活躍され、また様々な情報発信もされている岩田健太郎氏に、「数字の主観と意味について」というタイトルでご講演いただくことになりました. 奮ってご参加ください.

なお, 市民講演会の参加費は無料です.

日時:2019年9月8日(日)16:30~18:00

場所:滋賀大学・彦根キャンパス 大合併講義室

題名:数字の主観と意味について **講演者**:岩田健太郎(神戸大学)

概要:

数字は客観ではありません。主観です。クオリアと言ってもよいです。我々が「1万円」という数字を目にするときは、そこには必ず主観が伴っているのです。「主観」ゆえに絶対的な正義はそこにはありません。人によっては1万円を大金と考えるでしょう。人によってははした金と捉えるでしょう。外国の方とかだと、1万円と聞いてもピンとこない人も多いです。ぼくらが外国に行ったときに、貨幣価値がしっくりこなくて困るのと同じです(3ユーロってどんくらいだっけ、みたいな)。「主観」には文脈を伴います。今日のランチに1万円はけっこうリッチなランチですが、今月の生活費1万円は、わりとプアな1ヶ月です。

医学の世界にも数字はたくさん存在します。その「主観」は噛み合っているか?これが今回のテーマです。みなさんが医学の世界で見る「数字」は、まるで初めての外国での初めての貨幣を扱うように「しっくりきていない」のではないでしょうか。それがリテラシーの一部なのです。

6. 参加申込と大会参加費

当日受付の混雑を緩和するため、ウェブページ からの事前申込にご協力ください、受付期間は、 「1.大会日程、開催場所、各種受付期間」を参 照してください。事前申込の場合、参加費が大幅 に割引になりますのでぜひご利用ください。

大会参加費 (報告集代を含む)

	事前申込	当日受付
会員(主催6学会の会員)	7,000円	10,000円
学生(会員・非会員を問わず)	3,000円	8,000円
学生以外の非会員	15,000円	20,000円

チュートリアルセッション参加費(資料代を含む)

	事前申込	当日受付
会員(主催6学会の会員)	3,000円	4,000円
学生(会員・非会員を問わず)	2,000円	3,000円
学生以外の非会員	6,000円	8,000円

懇親会参加費

	事前申込	当日受付
会員(主催6学会の会員)	10,000円	12,000円
学生 (会員・非会員を問わず)	5,000円	6,000円

【注意】

- (1) 講演申込をされた方も参加申込の手続きが必要です.
- (2) これまでの大会と同様に、事前申込のキャンセルと変更は認められません。大会に参加されなかった場合、報告集などの資料は後日送付いたします。主催6学会の会員以外の方が、企画セッションや特別セッションでオーガナイザーから依頼されて講演される場合、大会参加費は無料となります。
- (3) 市民講演会の参加費は無料です.
- (4) 懇親会は、収容人数に余裕がある場合に限り、 オンサイト受付を行う予定です、オンサイト 受付のポリシーに関しましては、第四報(8 月発行予定)でご案内いたします。

7. 宿泊・アクセス案内

本大会では、宿泊施設紹介のウェブページを準備する予定です。しかし、このウェブページから 予約可能な宿泊施設には限りがありますので、各 自で早めに宿泊の予約をお済ませください。 大会会場の滋賀大学・彦根キャンパスへは、 JR「彦根駅」から直行バスで約10分、タクシーで約5分(900円程度)、徒歩約25分です。大会会場へのアクセスについてはウェブページ

https://www.ds.shiga-u.ac.jp/access/ もご覧ください.

8. 託児施設の利用案内

託児所を利用される場合、連合大会の予算内にてその費用を補助する運びとなりました。託児所利用費の補助を希望される方は、以下の(1)~(3)の手続きを行ってください。手続きに必要な託児所利用補助申請書と託児費用申請書は、大会ウェブサイト内の「宿泊・観光」ページでダウンロード可能です。

なお,予算の関係上,全額の補助ができない場合がありますので,ご了承の程お願いいたします.

- (1) 8月19日 (月) までに託児所利用補助申請書 http://www.jfssa.jp/taikai/2019/pdf/pre_ support4nursery2019.docx
 - を下記の申込先にメールにてお送りください.
- (2) 託児所の予約は、各自で行ってください. 近隣の託児所: NPO 法人保育サービスドリ
 - https://dreamwakuwaku.wixsite.com/toppage https://docs.wixstatic.com/ugd/7e31ea_fb30bc56 0726411b8d6446c2950c5a89.pdf
- (3) 9月20日(金)までに託児費用申請書 http://www.jfssa.jp/taikai/2019/pdf/ support4nursery2019.docx と領収書(スキャンしたもの)を下記の申込 先にメールにてお送りください.

申込・問い合わせ先

2019年度統計関連学会連合大会実行委員会

E-mail: jikkou2019 (at) jfssa.jp

(at) を @ に置き換えてください

12. 科学研究費:国際情報発信強化(B)の採択について

松田 安昌 (東北大学)

日本統計学会では、科学研究費:国際情報発信強化(B)に応募し、2019年4月に採択通知を受け取りました。採択課題名は「日本統計学会欧文誌から国際的新雑誌への発展を計る取組」であり、2019年度より2023年度の5年間に計1950万円の研究費が交付される予定です。なお、国際情報発信強化経費とは、学術団体等を対象とする科学研究費の種目の一つであり、国際交流に資することを目的に学術団体の国際情報発信を強化する取組に対して助成するものです。

この科学研究費の目的は、日本統計学会の、さらには日本における統計学の発展を目指して、統計関連学会連合が2018年6月に創刊した Japanese Journal of Statistics and Data Science (以下 JJSD)を発展させ、国際ジャーナルとしての地位を確立することにあります。具体的には以下の使い道を予定しています。

第一に、統計関連学会連合大会において、世界的に高名な統計家を招いてプレナリーセッションを開催し、その基調講演をJJSDにご投稿いただくことで、日本統計学会のさらなる国際化とJJSDのプレゼンスを高めることです。統計関連学会連合大会では2018年度からプレナリーセッションをはじめました。統計数理研究所が隔年で実施する赤池メモリアルレクチャー賞受賞者をプレナリーセッションに招待することになっており、2018年度には Mike West 教授(デューク大学)が基調講演をつとめられました。赤池メモリアルレクチャー賞を授賞しない年度に、本科研費による

プレナリーセッションを実施する計画です. その結果, プレナリーセッションを毎年開催することが可能となります. 2019年度連合大会(滋賀大学)には, 時系列解析で名高い Peter Brockwell 教授(コロラド州立大学)を基調講演者としてプレナリーセッションにお招きする予定です.

第二に、台湾、韓国の統計学会との連携を深め、広くアジアに JJSD を浸透させることです。現状でも、日本、台湾、韓国の学会において特別セッションを開催するなどの交流があります。本科学研究費により 3 学会の交流をさらに活発化して、3 学会のジョイントセッションを強化することを計画しています。さらに台湾、韓国にとどまらず、広く中国、東南アジアにも交流を拡大して、アジアの優秀な統計家に JJSD を宣伝する方針です。

最後に、実務的なことになりますが、Springer-Nature 社に委託して、電子ジャーナルプラットフォームを確立することです。JJSD を国際ジャーナルとして発展させるためには、web 投稿システムと迅速な査読は必須です。実績と伝統があるSpringer-Nature 社のノウハウを使って改良をすすめながら、このプラットフォームを維持・管理していく予定です。

以上,本科学研究費の目的と使い道について,現状の方針を紹介いたしました.本取り組みを通して日本統計学会の,さらには日本における統計学の発展を支えていくために,ご理解とご協力をお願いいたします.

13. イタリア統計学会からの招聘による国際会議 SIS2019への出席

赤平 昌文(前日本統計学会会長)

2017年9月に南山大学において統計関連学会連

合大会が開催された折に、 その企画セッションの

講演者でローマの聖心カトリック大学の G. Arbia 教授から、2019年にイタリア統計学会(Societa Italiana di Statistica、略して SIS)が開催を予定している国際会議 SIS2019 "Smart Statistics for Smart Applications"のラウンドテーブルへの出席依頼がありました。なお、同教授を紹介して下さったのは松田安昌教授(東北大学)と矢島美寛名誉教授(東京大学)です。その後、相互の連絡、また理事会への報告等を経て招聘を受諾致しましたが、その際、本会議の学術委員会委員長の Arbia 教授に開催時期には会長職を終了している可能性についても了承をして頂きました。当初は開催日程が確定されていませんでしたが、2018年後半になって会議の開催日程が2019年6月18日~21日に決定されたとの連絡を受けました。

SIS2019はミラノのカトリック大学で開催され. その参加者は約300名で、開会式では、SIS 会長 らの挨拶の後、ローマ大学 (Sapienza) の G. Leti 教授記念の表彰が行われ、本会議のラウンドテー ブルの司会者の M. Vichi 教授 (ローマ大学) らが 表彰されました. なお. Vichi 教授は欧州統計学 会連合 (Federation of European National Statistical Societies) の会長も務めております. 会議では、 招待講演と一般講演のセッションが設けられ、最 終日に行われたラウンドテーブル "Smart statistical societies in a small interconnected world" では. ロシ ア統計家協会 (Russian Association of Statisticians) 会長の A. Ponomarenko 氏, SIS 会長の M. Pratesi 氏, そして筆者が参加し, Vichi 教授の司会で進 行しました. ラウンドテーブルでは初めにそれぞ れの学会、協会の紹介を行うとともに、(i) 情報 化時代における統計学会の将来:挑戦とリスク. (ii) 統計科学がどのように変化し、それが社会 や統計家のコミュニティーにどのような影響をも たらすか. (iii) 統計家の新世代の育成:新職種

にどのように立ち向かい、そのための有効なスキルは何かなどについて議論しました。イタリアではすでに大学に統計学科が設立されていますが、コンピュータサイエンスとの競合、さらにデータサイエンスの台頭によって、統計学科の将来に、やや不安があるのではないかという印象を受けました。今回のSIS2019への出席が欧州の統計学会との交流のきっかけになればと願っております。(写真はラウンドテーブル終了後に撮影されたもので、左から Ponomarenko 氏、Pratesi 氏、Vichi 氏、筆者、Arbia 氏).

イタリアへの訪問は今回、4度目で、前回は今から20年前にローマ大学(Sapienza)の統計学科に1ヶ月間、滞在していて、久し振りにイタリアを訪れましたが、当時お世話になった A. Rizzi 教授もすでに亡くなられ、研究者も若い世代に代わったという印象を受けました。今回は、当時は無かったローマからミラノまでを約3時間で結ぶ高速鉄道フレッチャロッサ(Frecciarossa)に乗り車窓を楽しみました。約10日間のイタリア滞在中、半日だけ雨天で、他はほとんど快晴で酷暑が続くという地中海性気候は身にこたえましたが、いつも訪れる度に素晴らしい芸術・文化に触れてさらに訪問したいと思う印象深い旅になりました。



14. 第1回細谷賞授賞について

東北大学大学院経済学研究科では、細谷雄三名 營教授の統計学界における教育・研究への貢献を 記念して、広く人文・社会科学分野における若手 研究者のデータ科学研究を奨励するため、2018年 に細谷賞を創設しました。2019年3月31日を期日 に第1回受賞候補者の公募を行い、6名からなる 選考委員会を設け、慎重な審査・選考を行いまし た。ここに選考結果を報告します。なお、本賞は 東北大学須永特定基金より寄付を受け日本統計学 会の後援により実施しています。

第1回受賞者 栗栖大輔 (東京工業大学)

Kurisu, D. Power Variations and Testing for Co-Jumps: The Small Noise Approach. *Scandinavian Journal of Statistics*, Vol.45: 482-512, 2018.

講評

高頻度金融データ解析では market microstructure noise とよばれる観測誤差を伴うことが知られている。本論文は観測頻度が高くなるにつれて観測ノイズの影響が小さくなる small-noise を想定し、複数の金融資産が同時に観測される高頻度データにおいて、2つの金融資産が同時にジャンプしているか否かを、small-noise の下で検定する方法を提案したものである。small noise の仮定の下で構

照井 伸彦(東北大学大学院経済学研究科)

築された検定統計量の漸近理論は説得的であり, 数値実験は既存の方法に比べて優れた有限標本特性をもつことを示している.丁寧かつ明快なロジックで論文は構成されている.大きな発展の可能性が期待されている高頻度金融データ解析の分野において,受賞にふさわしい重要で堅実な貢献をしている.

細谷賞選考委員会

照井伸彦(委員長,東北大学)大屋幸輔(大阪大学)新谷元嗣(東京大学)西山慶彦(京都大学) 松田安昌(東北大学)山形孝志(University of York,大阪大学)

栗栖大輔氏略歴

2014年3月京都大学理学部卒業,2018年3月博士(経済学,東京大学大学院経済学研究科),2018年4月東京工業大学工学院経営工学系助教

2019年11月28日 に 授 賞 式 お よ び Hosoya Prize Lecture を開催する予定です.詳細は下記 webpage をご確認ください.

東北大学大学院経済学研究科サービス・データ科 学研究センター

http://www.econ.tohoku.ac.jp/econ/datascience/

15. 2019・2020年度会長選挙開票報告

樋田 勉・星野 崇宏 (2019・2020年度代議員選挙管理委員)

本学会会長選挙規程第4条による2019・2020年 度会長候補者に対する選挙が行われ,2019年4月 22日(月),統計情報研究開発センターにおいて, 選挙管理委員2名(樋田勉,星野崇宏)により開 票した結果,川崎茂氏が被選会長として当選しました。有権者数1,356名中,投票数383,うち有効票数380で,内訳は、賛364,否16,無効票数3でした。

16. 理事会・委員会報告(2019年5月11日)

理事会

日時:2019年5月11日(土曜日)12時00分~13時20分場所:早稲田大学早稲田キャンパス3号館8階3-811

理事の総数 13名 出席理事の数 13名 監事の総数 3名 出席監事の数 2名

出席者

理事:赤平昌文会長,西郷浩理事長,玉置健一郎(庶務),中野慎也(庶務),吉田靖(会計),青嶋誠(JJSD),佐井至道(会誌編集和文),伊藤伸介(広報),山本渉(大会・企画・行事),大森裕浩(国際),汪金芳(国際),松田安昌(渉外),稲葉由之(渉外)

監事:岩崎学,中野純司

委員 (オブザーバ):川崎茂(企画・行事)

第1議案 2018年度事業報告について

西郷理事長より、資料に基づき、2018年度事業について報告があり、審議の結果、承認され、社員総会に 諮ることとした。

第2議案 2018年度決算報告について

西郷理事長より、資料に基づき、2018年度決算について報告があり、審議の結果、承認され、社員総会に諮ることとした。

第3議案 監査報告について

岩崎監事,中野監事より,2018年度事業報告及び決算の監査結果について報告があり,審議の結果,承認され,社員総会で報告することとした.

第4議案 調達に関する細則について

日本統計学会委員会規程第8条に基づく庶務委員会 運用細則として、調達に関する細則の制定を審議したが、 適用範囲について検討を要するため、後日改めて審議 することとした.

第5議案 会員の入退会

西郷理事長より,回収資料に基づき,入退会希望者について報告があり,審議の結果,承認され,社員総会に提出することとした.

第6議案 社員総会招集の件

赤平会長より、社員総会を以下の通り招集する旨の 提案があり、承認された。

- 1. 日時 2019年6月8日 (土曜日) 午後1時30分から
- 2. 場所 早稲田大学早稲田キャンパス3号館3-909
- 3. 会議の目的事項

(1) 社員総会における通常の審議

委員会

日時:2019年5月11日 (土曜日) 13時20分~14時00分場所:早稲田大学早稲田キャンパス3号館8階3-811出席者:

理事13名,監事2名,委員1名,計16名 赤平旦立会長 西郷浩理事長 玉置健一郎

赤平昌文会長, 西郷浩理事長, 玉置健一郎, 中野慎也, 吉田靖, 青嶋誠, 佐井至道, 伊藤伸介, 山本渉, 大森裕浩, 汪金芳, 松田安昌, 稲葉由之, 岩崎学(監事), 中野純司(監事), 川崎茂(企画・行事)

<報告事項>

1. JJSD 支援委員会

青嶋委員長より、JJSD 第2巻1号が6月に出版予定 との報告があった。また、次号以降に掲載する論文の 投稿状況、次号以降の特集の予定などについて報告が あった。

2. 和文誌編集委員会

佐井委員長より,第48巻2号が発刊された旨と,第49巻1号に関して,原著論文2編,特集4編が査読中である旨の報告があった.

3. 大会委員会

山本委員長より、統計関連連合大会の第三報が出され、 5月13日より一般講演の募集が開始される旨の報告が あった。

4. 企画・行事委員会

山本委員長より,春季集会の参加者数などについて 報告があった.

5. 庶務委員会

・会長選挙結果について

中野委員長より、会長選挙結果について報告があった.

· ICOTS10会計報告

中野委員長より、回収資料に基づき、ICOTS10の会計について報告があった。

・太平洋地域統計会議から統計教育委員会への寄付について

早川毅先生から太平洋地域統計会議名義で統計教育 委員会に25万円の寄付を頂いた旨の報告があった.

・英語版入会申込書の修正について 中野委員長より、資料に基づき、英語版入会申込書 の修正について報告があった

6. 広報委員会

伊藤委員長より、会報179号が刊行された旨の報告が あった。

7. 国際関係委員会

赤平会長より、回収資料に基づき、イタリア統計学 会からの赤平会長招聘について報告があった.

8. 涉外委員会

- ・科研費「国際情報発信強化」の採択結果について 松田理事より、資料に基づき、科研費「国際情報発 信強化」が採択された旨の報告があった。
- ・統計検定について 稲葉委員長より、2級、3級に加えて、統計調査士 においても CBT 方式試験が開始され、また、4級、 専門統計調査士も準備中である旨の報告があった。

9. その他

中野理事より、資料に基づき、2018年度統計教育連携ネットワーク(JINSE)中間報告について、報告があった。

<審議事項>

- 1. JJSD 支援委員会 審議事項なし
- 2. 和文誌編集委員会 審議事項なし
- 3. 大会委員会 審議事項なし
- 4. 企画・行事委員会 審議事項なし
- 庶務委員会 審議事項なし
- 6. 広報委員会 審議事項なし
- 7. 国際関係委員会 審議事項なし
- 8. 渉外委員会 審議事項なし
- その他
 審議事項なし

17. 理事会・委員会報告(2019年6月8日)

理事会

日時 2019年6月8日(土曜日)午後3時00分~午後5時20分

場所 早稲田大学早稲田キャンパス 3 号館 9 階3-909教室

理事の総数 13名 出席理事の数 9名 監事の総数 3名 出席監事の数 3名

出席者:

理事:川崎茂会長,山下智志理事長,伊藤伸介(庶務), 玉置健一郎(庶務),吉田靖(会計),小池祐太(広報),稲葉由之(大会・企画・行事),松田安昌(国際),前田忠彦(渉外)

監事:赤平昌文,岩崎学,中西寛子

第1議案 会長及び理事長の選出について

開会に当たり、被選理事長山下智志が選ばれ、暫時、議長を務めた。議長は、会長赤平昌文と理事長西郷浩が任期満了により退任することとなり、会長選挙の結果川崎茂会員が被選会長として選ばれ、被選代議員会において山下智志代議員が被選理事長として選ばれた旨を述べた。これについて慎重に協議した結果、会長選挙規程および役員選任規程に則り、全員一致をもって、以下のとおり選定した。被選定者は、席上、その就任

を承諾した.

 会長
 川崎茂

 理事長
 山下智志

第2議案 常設委員会における委員の交代について

以降の議長は理事長が務めることとした.

山下理事長より、資料に基づき、JJSD 支援委員会、和文誌編集委員会、大会委員会、企画・行事委員会、庶務委員会、広報委員会、国際関係委員会、渉外委員会、質保証委員会、ISI 東京大会記念基金運営委員会、学会活動特別委員会、学会組織特別委員会、統計教育委員会における委員の交代について説明がなされ、審議の

和文誌編集委員会

結果,一部修正の上で承認した.

川崎能典委員,駒木文保委員,二宮嘉行委員,前園 宜彦委員,より大野忠士委員,田中未来委員,荻原哲 平委員,吉羽要直委員に交代(2019年6月8日付)

大会委員会

山本渉委員より稲葉由之委員に交代(2019年6月8 日付)

企画・行事委員会

川崎茂委員,永井義満委員,山本渉委員より稲葉由 之委員に交代(2019年6月8日付)

庶務委員会

田畑耕治委員,中野慎也委員より生亀清貴委員,伊藤伸介委員に交代(2019年6月8日付)

広報委員会

伊藤伸介委員,古隅弘樹委員,水野谷武志委員より 明石郁哉委員,鎌谷研吾委員,小池祐太委員に交代 (2019年6月8日付)

国際関係委員会

大森裕浩委員より松田安昌委員に交代(2019年6月 8日付)

渉外委員会

稲葉由之委員,鎌倉稔成委員,酒折文武委員,松田 安昌委員より前田忠彦委員,瀬尾隆委員に交代(2019 年6月8日付)

質保証委員会

稲葉由之委員より瀬尾隆委員に交代(2019年6月8日付)

学会活動特別委員会

足立浩平委員, 狩野裕委員, 鎌倉稔成委員, 川崎茂委員, 川崎能典委員, 清水誠委員, 高部勲委員, 西井龍映委員, 南美穂子委員より田畑耕治委員, 増田弘毅委員, 山本紘司委員に交代(2019年6月8日付)

学会組織特別委員会

大屋幸輔委員,金藤浩司委員,国友直人委員,西郷 浩委員,谷崎久志委員,田村義保委員,西山慶彦委員, 山下智志委員,若木宏文委員より会田雅人委員,狩野 裕委員,川﨑能典委員,清水誠委員,高部勲委員,富 澤貞男委員に交代(2019年6月8日付)

第3議案 常設委員会における委員の再任について 山下理事長より、資料に基づき、和文誌編集委員会、 庶務委員会, 国際関係委員会, 渉外委員会, 質保証委員会, 学会活動特別委員会, 学会組織特別委員会における委員の再任について説明がなされ, 審議の結果, 承認した

和文誌編集委員会

岩佐学委員,川口淳委員,佐井至道委員,佐藤整尚委員,笛田薫委員,福地純一郎委員,松井秀俊委員を再任(2019年6月8日付)

庶務委員会

吉田靖委員を再任(2019年6月8日付)

国際関係委員会

汪金芳委員を再任(2019年6月8日付)

渉外委員会

西郷浩委員を再任(2019年6月8日付)

質保証委員会

国友直人委員,西郷浩委員,福地純一郎委員,矢島 美寛委員を再任(2019年6月8日付)

学会活動特別委員会

青嶋誠委員,伊藤聡委員,内田雅之委員,大森裕浩委員,栗木哲委員,栗原考次委員,竹内光悦委員,竹 村彰通委員,椿広計委員,中野純司委員,樋口知之委員,渡辺美智子委員を再任(2019年6月8日付)

学会組織特別委員会

岩崎学委員,瀬尾隆委員,福井武弘委員,前園宜彦 委員,美添泰人委員を再任(2019年6月8日付)

第4議案 会員の入退会

山下理事長より、回覧資料に基づき入退会者が紹介され、審議の結果、承認し、社員総会に提出することとした

18. 社員総会報告

日時:2019年6月8日(土曜日)13時30分~14時40分場所:早稲田大学早稲田キャンパス3号館9階3-909教室

出席者: 赤平昌文会長, 代議員: 足立浩平, 伊藤聡, 岩崎学, 大森裕浩, 金藤浩司, 川崎茂, 川崎能典, 国友直人, 栗原考次, 西郷浩, 清水誠, 高部勲, 竹内光悦, 谷崎久志, 田村義保, 椿広計, 中野純司, 樋口知之, 前園宜彦, 山下智志, 美添泰人, 渡辺美智子(以上出席代議員22名, 委任状提出9名, 議決権行使書4名)

(オブザーバー:吉田靖,中野慎也,玉置健一郎)

冒頭、赤平会長より定足数を満たしていることを確認の後、開会宣言がなされ、オブザーバー3名の出席が承認された。赤平会長より、議事録著名人として栗原考次代議員、樋口知之代議員に依頼する旨説明があり、承認された。

審議事項

第1議案 2018年度事業報告及び決算の承認に関する 性

赤平会長より、資料に基づき、2018年度事業報告及び決算報告がなされた。決算報告について吉田会計理事により補足説明がなされ、審議の結果、承認された。

-般社団法人 日本統計学会

2018 年度事業報告

 $(2018.4.1 \sim 2019.3.31)$

学会の動向

日本統計学会は一般社団法人として8年目を迎え、2年周期の学会事業の4期目を終えることになる、運営の経験を蓄積したことを生かして、赤平昌文会長、西郷浩理事長を含む13名の理事と3名の監事、および各種委員会における委員により、各種事業を着実に実施した。Japanese Journal of Statistics and Data Science 第1巻の発行、統計関連学会連合大会での第2回 Akaike Memorial Lecture や複数の国際セッション実施など、国際的な活動にも大きく貢献した年度であった。

2019年2月9日現在の会員の数は1,480(名誉会員15,正会員1,407,準会員2,学生会員56)、これに加えて賛助会員17法人、団体会員8団体がいる.

1. 出版編集事業

1. 和文誌の発行

和文誌 2 号[第 47 巻ンリーズ J 第 2 号(4 月),第 48 巻シリーズ J 第 1 号(9 月)]を発行した.内訳は原著論文 4 編,受賞者特別寄稿論文 4 編,会長就任講演,その他を合わせ 全 523 ページであった.

2. Japanese Journal of Statistics and Data Science 編纂の支援

Japanese Journal of Statistics and Data Science 第1巻(Issue 1, Issue2: 原著論文計19編: 全435ページの発行に協力した. また,従来の欧文誌編集委員会の名称を JJSD 支援委員会に変更し、協力体制を整備した. 科学研究費助成事業 研究成果公開促進費「国際情報発育強化」にも応募した(2019 年度に採択).

3. 会報の発行

No.175 (4 月), No.176 (7 月), No.177 (10 月), No.178 (1 月) を発行した.

4. JSS Research Series in Statistics シリーズ(英文)の出版

昨年度に引き続き,JSS Research Series in Statistics シリーズの出版を行った.2019 年 3 月現在 18 冊が出版済みであり,JSS-Springer 編集委員会では今後 10 冊以上の出版 を予定している.

口、内外学界交流事業

1. 日本統計学会第86回大会の開催

2018年9月9日(日)~13日(水), 中央大学 後楽園キャンパスにて、統計関連学会連合大会の一環として開催した. 企画セッションとして、第2回 Akaike Memorial Lecture, 日本統計学会各賞受賞者講演(各賞授賞式), CIPS-JSS-KSS International Session (Wakimoto Session) 1件, CSA-KSS-JSS Joint International Session 3 件を行った.

2. 春季集会の開催

2019 年 3 月 10 日(日) に第 13 回春季集会を日本大学経済学部において開催した. 参加者は 213 名であった.

3. 研究分科会の活動

以下の分科会が活動を行った.

「スポーツ統計分科会」(田村義保主査:2009年6月発足,2021年5月終了予定) 「統計教育分科会」(藤井良宜主査:2010年12月発足,2018年11月終了) 「計量経済・計量ファイナンス分科会」(福重元嗣主査:2010年12月発足,2018

「計量経済・計量ファイナンス分科会」(福重元嗣主査:2010 年 12 月発足, 年 11 月終了)

国際会議への協力

第 10 回国際統計教育大会(ICOTS-10)の開催に協力し、 ISI 東京大会記念基金からの助成も行った. また, 2019 年に開催の Data Science Statistics & Visualisation 2019 (DSSV2019) に対しても ISI 東京大会記念基金から助成を行った.

田. 会員関係事業

1. 賞の授与

学会活動の活性化促進のため,以下の賞を授与した.

第 23 回日本統計学会賞:大森 裕浩,狩野 衤

第 14 回日本統計学会統計活動賞: 該当なし

第 14 回日本統計学会統計教育賞:光永 文彦, E2D3.org (Excel to D3.js)

第 12 回日本統計学会研究業績賞:浅井 学,栁原 宏科

第 11 回日本統計学会出版賞:該当なし

第 32 回日本統計学会小川研究奨励賞:小池 祐太

各種委員会の活動

લં

社員総会 (2018年6月9日, 2019年3月9日) を開催した.

理事会 (2018 年 5 月 12 日, 7 月 21 日, 11 月 3 日, 2019 年 2 月 9 日) を開催した. 役員・代議員協議会 (2018 年 9 月 9 日) を開催した.

その他の各種委員会を適宜,開催した.

)他の各種委員芸を適且,) || ||

広報活動の充実

メーリングリストの使用やウェブサイトの充実により、各種情報発信を促進した。

4. 入会者の拡大

|春季集会等の機会を利用し,若手研究者の入会を促進した.また,入会案内を更新| |-

5. ISI 東京大会記念奨励賞事業の開始

ISI 東京大会記念奨励賞事業を開始し, 2019 年の ISI WSC 開催に先立って募集を行っ

IV. 啓発普及事業

1. 「統計検定」の実施協力

日本統計学会が認定団体となり,一般財団法人統計質保証推進協会により紙媒体による「統計檢定」(2018年6月17日,11月25日) および CBT 方式による「統計検定」が実施された。

統計検定は、2018年9月3日,10月22日,11月1日にそれぞれ経済産業省,内閣府,厚生労働省の後援事業として承認された. これにより、総務省後援・文部科学省後援・経済産業省後援・内閣府後援・厚生労働省後援の事業となった.

2. MOOC による統計学講座の提供

MOOC のブラットフォーム gacco において, 「総計学 I: データ分析の基礎」, 「統計学 II: 推測総計の方法」および「総計学 III: 多変量データ解析法」を開講した.

3. 常散委員会「質保証委員会」の設置

臨時委員会「質保証委員会」,「基準委員会」,「出版企画委員会」を改組し,常設委員 会「質保証委員会」を設置した。

V. その色

1. 厚生労働省毎月勤労統計調査に関する声明の公表

2019年1月28日に厚生労働省毎月勤労統計調査に関する声明を公表した.

. 臨時委員会「公的統計に関する臨時委員会」の設置決定

臨時委員会「公的統計に関する臨時委員会」を 2019 年 4 月 1 日付で設置することを決定した.

事業報告附属明細書

附属明細書に記述すべき事項はない.

監查報告書

私たち監事は、一般社団法人日本統計学会の 2018 年4月1日から 2019 年3月31 日までの理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下の通り報告いたします。

監査の方法及びその内容

各監事は、理事と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告にて検討いたしました。

さらに、当該事業年度に係る計算書類 (正味財産増減計算書、貸借対照表) について検討いたしました。

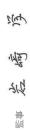
監査の結果

- (1) 事業報告等の監査結果
- 事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い、学会の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二、理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- (2) 計算書類の監査結果

計算書類は、学会の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

2019年4月25日

一般社団法人日本統計学会



野事 (中 聖子 条任 5)





(単位 円)		2名、入会金1名	A THE PARTY OF THE	日子校校十四届日本日 日子 大学 大学 日 日子 大学 大学 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	40 (a. 60 km et al. 60	者作值许品转命	JUSD条时負担金	奇数年度に発行	会誌・会報の討斷、投票用紙等	32 主な費用は勢級会験 500 *参加費はマイナスの軽数とする でか加費はマイナスの軽数とする。	**60周年記念卷案先出(國時計, 大笠参加賽) 75周年記念基金先出	**///川岛泰宏光訓 建合六会質助公子会質助待分 音響等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等	致光部200.對我樂樂存出 1件	*弁当代、会場費		#当代,会堪整	47.77	カートの日本の日本		16.516 (人印纸 17.2000 14.800 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	1000年100万円	和大誌2号分	*価格上昇によるもの		*2018, 2019年分		ドメイン維持登、名簿バスワード更新料選合大会参加費、旅費、滞在数		加民税	DSSV2019, ICOTS10, 華渤族院等								
年3月31日 2018年度決算	13,161,088	286,000	915,000	1,067,088	1,031	25,905,182	3,051,972	647,870	1,071,902	803,032 ▲ 232,000	281,987	97,000	50,000	157,336	0 0	81.582	392,095	0 0	50,000	10,600	1,403,713	465,842	662.979	189,364	64,364	40,000	1,083,017	0	70,000	12,493,98€ E	153,765 ▲ 12,897,859		0	79,431,995	olo	0	79,431,995	0
2018年4月1日~2019年3月31日 2018年度予算 2018年度決算	11,730,000	330,000	950,000	1,318,000	18,000	28,672,550	3,200,000	000,097	1,340,000	1,100,000	250,000	100,000	250,000	120,000	20,000	20,000	780,550	40,000	00006	30,000	1.610,000	000,000	10,000	150,000	25,000	40,000	30,000	00	70,000	13,000,000 A 14,394,550	■ 984,550 ■ 13,410,000	C	0 000	77,781,539	00	0	77.781,539	10,000,000 9,00 t.00
**	1. 衛和養養の (1) 都有収益 会費収入 ※指令語:〒企業		122 X 020	4年 10年 4年 10年 4年 10年 10年 10年 10年 10年 10年 10年 10年 10年 10	和子班入 広告収入	(2) 軽厲費用 (40位) (20位)	中断實 会該(和47-2, 48-1) 英文誌	(会報(175-178号) (名莲印刷寶	「その他印刷」	养非暴灾條何	化侧间分析 王扬章			85	特別委員会 統計教育委員会	会院職業的資金	事務費	大寶 (1955年) 一般學院/本寶 林下碧南東區 (本華	松正編集事務人作實 	11	十五十五年の100年の11月 1日			纹真旅客補助 各精分相金 	日本株沼子を連合 国際統計協会は 運動を対抗協会は	(他断生参野科子技術研究団体建己 (統別漢字会連合 子の他	ネットワーク維持書国際交派促進委	名簿作成籍立金 統計線定關係要	ホームページ更新書用 租税公課	151 単東大小	(うち特別重保以外) (うち特別重保) (うち特別重保) (ものは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本	2. 新名作場票UNB (1) 軽常外収益 2.6 同化的合业等自会资金沿向理码式	(19)的 计数据 (19)	一般工作的库姆目对面 一般工作的库姆来通通 T 您完正的产俸基价额	日 日に工作制度 4 年 2 2 B 日に工作制度 4 2 B 2 B 2 B 2 B 2 B 2 B 2 B 2 B 2 B 2	怕足正帐附 医斯夫克克 指定正味附 医郭末克克	II 正味財産期末発高	VI 予鑑費 (注) 資用項目中予算を超過する項目(4日)があるが全て予溫費の範囲内のもの

	TBA			77.77	
	期官	期末	本田	期首	期末
資産の部 現預金	18,035,930	19,186,065	11 負債の部 未払金	0	0
			負債合計	0	0
貸付金	1,000,000	0	田正味財産の部 地字に味財産		
流動資産合計	19,035,930	19,186,065	11年中本的第一一般正味財産	92,176,089	79,431,995
			(うち基本財産への充当額)	0	0
学会活動積立金	3,502,950	3,503,247			
60周年記念基金	1,669,622	1,383,938			
75周年記念基金	1,542,611	1,542,625			
ISI基金	51,916,353	39,420,035			
ICP基金	11,278,372	11,278,467			
17711春田沢	3,230,251	3,117,618	1		
特定資産合計	73,140,159	60,245,930	(うち特定財産への充当額)	73,140,159	60,245,930
固定資産合計	73,140,159	60,245,930	正味財産合計	92,176,089	79,431,995
資産合計	92,176,089	79,431,995	79,431,995 負債及び正味財産合計	92,176,089	79,431,995

国 加 動 (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	(単位:	摘要							
trolland Aud High	и О		4.756.028	7.500,000	30,000	5.400	2,561	200,000	12,493,989
R R R R R R R R R R	附属明細書 1. ISI 東京大会		ICOTS10 運営補助費	DSSV2019 運営補助費	フライヤー作成費	IT	会 運営会	事務局業務委託費	die

(単位:円)

豳

椞

当期未残高

当期減少額

前期末残高 当期増加額

Ш

椞

増加額は本口座から一括で 1,383,938 支払った他基金費用分の入 金等

310,747

25,063

1,669,622

3,503,247 増加額は預金利息

297

3,502,950

学会活動積立金 60周年記念基金

39,420,035 增加額は主に返金分 1,542,625 増加額は預金利息

12,740,661

244,343

1,542,611 51,916,353

75周年記念基金

(世)

ISI基金

11,278,467 増加額は預金利息 3,117,618 増加額は預金利息

92 27

11,278,372 3,230,251

(注2) ICP基金

(2019年3月31日現在)

特定資産の増減及びその残高

特定資産の増減及びその残高は次のとおりである

ı		
ı		
l		
ı		
ı		
ı		
ı		
ı	Late	
ı	(推	
ı		
ł	会参加費	
ı	吕	
ı	41/2	
ı	414	
ı	Alb.	
ı	Ж	
ı	٠;	
ı	+	
ł	485	
ı	-	
ı		
ı	\sim	
ı	は学会賞(置時計	
ı	4K	
ı	AN.	
l		
f	10	
ı	更途は	
ı	吏	
ı	ЯH	
ı	ALI-	
ı	基金の資金	
ı	6	
ı	全	
ı	448	
ı	440	
ı	ďδ	
ı	띪	
ı	111	
ı	1000	
ı	=	
ı	9	
ı	E1) 60周年記念書	
ı	ÁH.	
ı	6	

60,245,930

13,164,068

269,839

73,140,159

(注4) 中半

112,660

(注1) 60周年記念基金の資金使途は学会賞(置時計、大会参加費)等	(注2) ISI基金の資金使途はICOTS10 運営補助費、DSSV2019 運営補助費、事務局業務委託費等	ICP基金はICPセミナーフォローアップ事業基金	(注4) 小川賞基金の資金使途は小川賞	
圧1) 60	Œ2) IS	(注3) IC	主4) 小	

第2議案 理事及び監事の選任に関する件

赤平会長より,理事(赤平昌文,西郷浩,中野慎也, 青嶋誠,佐井至道,伊藤伸介,山本渉,大森裕浩,松 田安昌,稲葉由之)及び監事(岩崎学,中野純司,中 西寛子)が本社員総会の終結と同時に任期満了し,退 任することになり,その改選の必要があるため,以下 のように後任の理事及び監事を選任する提案があり, 審議の結果,承認された。(2019年6月8日付)

理事 川崎茂, 山下智志, 伊藤伸介, 青嶋誠, 吉羽要直, 小池祐太, 稲葉由之, 松田安昌, 前田忠彦, 瀬尾隆 監事 赤平昌文, 岩崎学, 中西寛子

報告事項 (理事会報告)

1. 公的統計に関する臨時委員会の設置

西郷理事長より、資料に基づき、公的統計に関する 臨時委員会の設置について報告があった.また、美添 委員長より委員会の報告書について説明があった.

2. 調達に関する細則の制定

西郷理事長より、資料に基づき、調達に関する細則 の制定について報告があった.

3. 会員の入退会

西郷理事長より、回覧資料に基づき、会員の入退会 について報告があった.

報告事項 (委員会報告)

1. 2019年度統計関連学会連合大会について

西郷理事長より、2019年度統計関連学会連合大会が2019年9月8日(日)~12日(木)に滋賀大学彦根キャンパスで開催され、企画セッションとして、日本統計学会会長講演および日本統計学会各賞授賞式・日本統計学会各賞受賞者記念講演が予定されている旨報告があった。

2. 2019年3月開催の春季集会の報告

西郷理事長より、2019年3月10日(日)に日本大学で開催された第13回日本統計学会春季集会について報告があった。

3. 日本統計学会各賞受賞者の紹介

赤平会長より、資料に基づき、日本統計学会各賞の 受賞者について以下のように報告があった。

日本統計学会賞:小暮厚之氏

研究業績賞: P. J. Brockwell 氏・松田安昌氏

統計活動賞:国立大学法人 滋賀大学

統計教育賞:一般社団法人 日本品質管理学会 TQE 特別委員会, 塩澤友樹氏

出版賞: 竹内啓氏

小川研究奨励賞:茂木快治氏

4. 科研費(国際情報発信強化)の採択について 西郷理事長より、科研費「国際情報発信強化(B)」 が採択された旨の報告があった.

5. その他

特になし

報告事項(その他)

1. 特別委員会からの報告

統計教育委員会竹内委員長より、スポーツ統計分科会、統計教育分科会と共同事業、IASE 統計グラフコンクールへの代表選出、統計関連学会連合大会における企画セッションの開催、理数系学会教育問題連絡会への参加について報告があった。

2. その他

足立先生から DSSV2019の準備状況について説明があった.

赤平会長から退任の挨拶があった.

19. 新刊紹介

会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を掲載します.

●須藤昭義・中西寛子『書き込み式 統計学入門 ~スキマ時間で統計エクササイズ』東京図書株式 会社,2019年6月,2000円+税

内容紹介:近年,「統計」が注目を浴びており, ビジネスの現場でも統計の知識が必要とされてい ます. 本書は大人に向けた書き込み式の入門書. 統計の基礎が,手を動かして問題を解いていくう ちに身についていきます. ● Emura T, Matsui S, Rondeau V 『Survival Analysis with Correlated Endpoints - Joint Frailty-Copula Models』JSS Research Series in Statistics, Springer, 2019年3月, 6,617円 (税込) 内容紹介:生存期間データの解析において、相関のあるエンドポイントを取り扱うための統計的手法を紹介している。エンドポイント間の相関を考慮する「コピュラモデル」を概説し、それぞれのエンドポイントに Cox 回帰法を適用する手法を紹介している。統合データや多施設データを生存

期間のランダム効果モデル「Frailty モデル」」で解析する方法論も解説されている。本書でとりわけ提案されているモデルは、コピュラモデルとFrailty モデルを組み合わせた、Joint frailty-copulaモデルである。医学研究における患者生存期間への適用例を用いて、提案しているモデルの有用性を解説している。本書で紹介されている手法は著者が開発しているRパッケージ(joint.Cox)で実行可能であり、パッケージ利用法の解説も行っている。がんの臨床研究における、全生存と無増悪期間の2つのエンドポイントの同時解析の事例を用いて解説を行っているが、提案されている手法は信頼性工学などの他分野にも適用可能である。多次元生存期間を解析するための統計モデルに関する数理的基礎も提供している。

● Dörre A, Emura T 『Analysis of Doubly Truncated Data - An Introduction』 JSS Research Series in Statistics, Springer, 2019年5月, 6,619円 (税込)

内容紹介:両側切断データ (doubly truncated data) を解析するための統計手法をまとめたはじめての

専門書. 尤度法,ベイズ法,ノンパラメトリック法,線形回帰法を紹介している.また推定量の漸近分布の性質などの理論的基礎も与えている.これら紹介されている手法は計量経済や生物統計において扱われている生存時間(イベント観察時間)を解析するために有効である.データが「切断」されることはしばしば(実験を伴わない)観察研究でみられるため、本書で紹介されている手法は多くの分野の実データ解析に応用可能である.紹介されている手法を実行するRコードやRパッケージの使用法が含まれている.本書は、統計学、数学、計量経済学などを専攻する学生、とりわけ大学院生に適している.

●大隅昇・鳰真紀子・井田潤治・小野裕亮(訳) 『ウェブ調査の科学―調査計画から分析まで―』, 朝倉書店,2019年7月,8,000円+税

内容紹介: R. Tourangeau, F. G. Conrad, M. P. Couper (著), "The Science of Web Surveys" (Oxford University Press, 2013) の全訳に日本語版付録(補章、用語集など)を加えた.

20. 博士論文・修士論文の紹介

最近の博士論文・修士論文を原稿到着順に紹介いたします. (1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月の順に記載いたします.

修士論文

- (1) 大東智洋 (2) 修士 (工学) (3) 東京 理科大学 (4) 臨床試験における既存データと 新規データの患者背景の違いを考慮したベイズ流 解析モデル (5) 寒水孝司 (6) 2019年3月
- (1) 金珍成 (2) 修士 (工学) (3) 東京理 科大学 (4) 欠測がある経時測定データにおけ る治療効果の重み付き推定に関する研究 (5) 寒水孝司 (6) 2019年3月
- (1) 小檜山雄太 (2) 修士(工学) (3) 東

- 京理科大学 (4) プラセボ効果に対処する2段 階試験デザインにおける個別検定法の適用 (5) 寒水孝司 (6) 2019年3月
- (1) 嶋野祐輔 (2) 修士 (工学) (3) 東京 理科大学 (4) 一般化ウィルコクソン型 Gray 検 定の性能評価 (5) 寒水孝司 (6) 2019年3月
- (1) 竹田健人 (2) 修士 (工学) (3) 東京 理科大学 (4) 治療効果の発現時期を考慮した 生存時間分布の定式化とその群間比較法の提案
- (5) 寒水孝司 (6) 2019年3月
- (1) 田中優一 (2) 修士 (工学) (3) 東京 理科大学 (4) がん第 1 相臨床試験における相 対用量強度と累積投与量に基づく推奨用量とその 探索法の提案 (5) 寒水孝司 (6) 2019年3月
- (1) 佐伯悠一郎 (2) 修士 (理学) (3) 東

京理科大学 (4) A Test for Parallelism Hypothesis and an Approximate Confidence Interval of Level Difference in Intraclass Correlation Model with

Monotone Missing Data (5) 瀬尾隆 (6) 2019 年3月

21. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2019年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上、こちらもご活用下さい。また、クレジットカードでの学会費払込も受け付けております。お申込みは学会ホームページよりお願いいたします。(https://www.jss.gr.jp/fee/)。

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに,氏名と住所を以下にお伝えください.手続きに必要な書類が送付されます.

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F

公益財団法人統計情報研究開発センター内 日本統計学会担当

Tel & Fax: 03-3234-7738 E-mail: shom@jss.gr.jp

訃報

次の方が逝去されました. 謹んで追悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます.

小瀧 光博 会員

入会承認

石曽根毅, 伊藤孝之, 伊藤翼, 稲田光朗, 稲葉洋介, 江頭健斗, 大屋栄, 川﨑洋平, 菊池淳一, ギ

マレンス ゴンサルベス ダニロ, 桑野優子, 慶野有輝, 高平, 小西啓介, 小林光木, 小林靖之, 史磊, 塩澤友樹, 城田慎一郎, 新垣隆生, 鈴木一平, 田原康寛, 張麒, 寺島孝輔, 内藤宏明, 中田百科, 中田竜明, 中村駿佑, 夏悠寧, 西木慎太朗, 西村教子, 畠中賢治, 早川知志, 坂東拓馬, 福西広晃, 藤田智紀, 細田幸希, 町田保, 松岡弘樹, 南俊匠, 三輪幸大, 柳部太一朗, 横井智広, 吉羽要直, 光永航志朗

退会承認

有馬昌宏, 井添慎太郎, 伊高静, 菊池明男, 楠田貴至, 久布白寛, 佐藤学, 佐藤賀一, 斯波恒正, 田浦元, 田口雅也, 千野直仁, 富樫光隆, 南林さえ子, 南風原朝和, 八田英二, 濱田将樹, 平田陽介, 藤原英男, 椋木伸吾, 吉岡慎一, 渡邉裕之 (敬称略)

長期連絡不能により退会したとみなされた会員 秋本義久,新井宏尚,大谷内奈穂,河合竜也,小 島将裕,髙橋卓,崔庭敏,長崎健一,中原啓智, 深澤桃子,山上真吾 (敬称略)

現在の会員数(2019年6月8日)

名誉会員	15名
正会員	1,398名
準会員	2名
学生会員	62名
総計	1,477名
賛助会員	16法人
団体会員	8団体

22. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益である と考えられるものなどについて原稿をお送りくだ さい. 以下のような情報も歓迎いたします.

- ●来日統計学者の紹介 訪問者の略歴,滞在期間,滞在先,世話人など をお知らせください.
- 博士論文・修士論文の紹介
 (1) 氏名(2) 学位の名称(3) 取得大学(4) 論文題名(5) 主査または指導教員(6) 取得年月 をお知らせください。
- ●求人案内(教員公募など)
- ●研究集会案内
- ●新刊紹介

著者名,書名,出版社,税込価格,出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし、主観的な表現は避けてください。

●会員活動紹介(叙勲・受章,各種受賞等) できるだけ e-mail による投稿,もしくは、文 書ファイル(テキスト形式)の送付をお願い致し ます.

原稿送付先:

〒153-8914 東京都目黒区駒場3-8-1 東京大学大学院数理科学研究科 小池 祐太 宛 E-mail: koho@jss.gr.jp (統計学会広報連絡用 e-mail アドレス)

- 統計学会ホームページ URL:
 - https://www.jss.gr.jp/
- 統計関連学会ホームページ URL: http://www.jfssa.jp/
- 統計検定ホームページ URL: http://www.toukei-kentei.jp/
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス: meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス: koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス: shom@jss.gr.jp